



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 19

(2022年9月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

富岡製糸場の^{おうぎ}扇

富岡製糸場には、扇をモチーフにしたものがいくつかあります。例えば、生糸の出荷時に貼り付ける商標ラベル(東置繭所または西置繭所の展示参照)や、東置繭所アーチの前にそびえる行啓記念碑の土台部分、寄宿舍の床下通気口(写真参照)など、いたるところで扇型が見られます。いったい、富岡製糸場と“扇”にはどのような関係があるのでしょうか。

扇にまつわる最も古い記録は、富岡製糸場を設立して間もない明治6年まで遡ります。このとき明治天皇の皇后と皇太后が富岡製糸場を行啓訪問し、後日、工女全員に^{せんす}扇子をお配りになったようです。これは富岡製糸場と扇を関連づける大きな出来事であったことでしょう。

さらに、東置繭所のアーチの両脇には、西洋風の飾り窓があしらわれています。これも扇型と捉えることができます。これは他の扇をモチーフにしたものと少し意味合いが異なるかもしれませんが、この扇窓は設立時には無く、他の窓と同じ形であったものを後に改修したようです。

このように、よく観察すると富岡製糸場には扇型のものがたくさんあります。もしかすると、まだ発見されていない“扇”が他にもあるかもしれません。



写真/寄宿舍の床下通気口
(現在は見学区域外)

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

